

熊大 研究班

水俣病の原因で発表

製造工程中に有機化

入鹿山 有害物質を検出

「水俣病の原因物質と考えられる有機水銀化合物を、新日鐵水俣工場より直接採取した水銀カスの中から検出した」と入鹿山大教授が、十六日朝大医学部で開かれた米國P.H.S.奨励資金による水俣病研究班の第二回班会議の席上で発表した。この日の班会議では、各班員からこの二年間の研究成果が報告された結果、水俣病の原因は工場排水による有機水銀中毒であるという従来の説がほぼ最終的に異論のないものとなったが、入鹿山教授の発表は、さらに従来あいまいとされてきた水銀の有機化の問題につき、直接的原因となった有害物質(有機水銀)が作られるのは工場の製造工程中であるということを示唆した。今後世良完介班長(朝大名誉教授)は、もはや水俣病の直接的原因が新日鐵工場の排水にあることは疑う余地のないことである。全責任は工場にあると断った。

米國P.H.S.(公衆衛生誌)の奨励班員はじめ入鹿山且朗朝大教授、および喜田村正次神戸医大教授、合議である。助養会による水俣病研究班の第二(衛生学)内田機男同教授(生化学)(朝大公衆衛生学教授)白木博、世良班長の経過報告のおとただ、同班会議は、十六日午後一時から、武内成男同教授(第二病棟)次東大村篤昭同教授らの班員が出席した。昨年二月以来一年ぶりの朝大医学部会議室で開かれた。世良班員比古同助教授(第一内科)席した。徳田助教授、武内、白木同教

まいな点を解明したもので、これまで研究班の多くは、水銀は海の中でフランクTONの作用や魚貝類体内の作用で有機化するのではないかとの考えをとり、この点のあいまいさに工場側ははげしく反響していたが、同教授の研究により、有害物質はすでに工場の製造工程の中でできていたことが明らかにされたわけである。

しかし内田、入鹿山両教授が抽出した原因物質は、メチル水銀の化合物であるという大まかな点では一致しているが、構造式の上でわずかの違いがあり、この点の研究は今後に進まれることになった。今後、世良班長は、原因究明のわれわれの研究はすでに頂上に達している。内田、入鹿山両教授は頂上の中の最後の点を争っている段階だ。水俣病の直接の原因が工場排水にあることは全くくつがえることのない結論だ。工場のメタンな排水処理が水俣病をおこした。全責任は工場にあると断った。

授の報告について、内田教授は、水俣病原因究明のキマ手となった目の中からの原因物質の結晶抽出の成功と合成実験を報告した。ついで入鹿山教授は、工場の酢酸工場の反応管より直接採取したドロ状の水銀カスから、水俣病の原因物質とみられる有機水銀化合物を検出した、と発表した。この研究は、工場で使用している無機水銀がどの段階で有機化したかという従来の研究の中で唯一のあい

いっほう、医学研究班の原因究明の結論が全面的に工場側の、ク口、ということになれば、これが新たな刑事上の問題としてうかがいあがる可能性もあるわけだが、この問題に関して朝大の池田教授正は、今のところ検査庁としてはどうするかなんともいえない。これまでは医学的なのはっきりした原因がわからず、われわれが手を出さなくても、手のつけようがなかったが、もし医学的研究の結論が出れば、結果したいは大いに關心

をもたねばならない問題だろうと語っている。

なお新日露一擧側は、この問題に關して全く説明をさけている。

“新患出さぬよう”

◇元水俣病患者家庭互助会長渡辺栄蔵さん（みじ）水俣市湯堂、漁業の話　くわしいことは聞いていないのでいまどうしようとはいいませんが、私たち漁民が信賴している熊大医学陣にはこんごも必要に応じ資料を提出、応援したい。わたしの願いは二年ばかり前から出なくなつた水俣病の新患がこんごも絶対に出ないように対策を考慮してほしいとどうもいふた。

韓会談即時中止運動が急速に高まるとともに、事実上日韓交渉の基

本線がくずれ、日韓会談中断の事態に発展するかもしれないという見方も出ている。いすれにしても外務省内には民政移管前の調印、批准を困難とする観測が一段と強まっております、当

初の早期妥結機運は全く影が薄れている。